

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800325		
法人名	特定非営利活動法人 ほのか会		
事業所名	グループホーム あかるい家		
所在地	夕張郡由仁町東栄16-18		
自己評価作成日	平成27年2月23日	評価結果市町村受理日	平成27年4月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigyosyoCd=0175800325-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人生、大先輩の入居者様に尊敬と敬意を表しまして、丁寧な言葉使いで、暖かな「ケア」をモットーに、家族様・ご本人様とも一緒に行う「ケア」に日々努力を重ねております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

由仁町のJR駅近くの住宅地の中にある1ユニットのグループホームである。敷地内には畑やあずま屋があり、天気の良い日には利用者が散歩や外気浴を楽しんでいる。平屋の回廊式で浴室やトイレも比較的広く、居間と食堂が一体的で大きな窓があり全体が明るい。居間に大きなソファを複数配置し、利用者が寛いだり、歌や遊びで楽しんでいる。職員や管理者は利用者にやさしく穏やかに話しかけ、小鳥や犬を飼い、癒しのある家庭的な雰囲気を作っている。地域との関係が良好で、近隣住民に事業所の犬の散歩や、除雪や散髪のコラボを得ている。また、地域住民が自主的に災害時の緊急連絡網を作成している。運営推進会議はメンバーが揃い、サービス評価や感染症、地域交流、食事、連絡網などをテーマに意見交換している。アセスメントシートや介護計画を計画的に作成するとともに、毎日の記録も職員が記録しやすく、かつ適切な記録が行える様式としている。食事の面では、彩りや品数が豊富でバランスのとれた美味しい食事が提供されている。外出支援については、介護度の高い方が増えて難しくなっている中で、年間行事の他に通院の帰りを利用して行きたい場所への外出を支援している。医療面の支援や看取りの体制も整えている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見やすく目の届く場所に事業所理念掲示、ケアに不安を感じると初心に戻りたく読み返して元気を付けております。	4項目の理念の中に「地域とともに」という文言を入れ、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念としている。理念を食堂の壁上部に掲示し、職員は介護のそれぞれの場面で理念を振り返るようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣家のボランティア、「床屋さん」除雪応援・犬の散歩・近所さんからの差し入れ等のふれあいがございます。	自治区会のお楽しみ会や文化祭に利用者と共に参加している。近隣住民に事業所の犬の散歩や、除雪や散髪の協力を得ている。また、事業所の夏祭りなどに地域の住民や子供が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内春の清掃・秋祭り・文化祭、回覧が回りますので、出来る限りスタッフ同行にて参加させていただいております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・町内会代表・民生委員・福祉担当様方の出席頂サービス評価と取り組み状況報告と意見交換、貴重な意見を頂きサービス向上に多いに役立てております。	運営推進会議を年6回開催し、町の福祉課、民生委員、複数の利用者家族、法人代表などが参加して、サービス評価や感染症、地域交流、食事、連絡網などをテーマに意見交換している。議事録を全家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場・病院・消防・自治会「推進会議・認定調査・避難訓練・消防用設備点検・受診」等関わりが多く大変ご協力いただいております。」	町の職員が運営推進会議に参加するほか、町に直接相談に出向いたり、介護保険の手続きについて電話で相談している。事業所の隣の住民が町の福祉課担当で、協力関係を築きやすい環境にある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご本人に危険が伴う様なやむを得ない場合に限りご本人に承諾頂き食堂テーブルと、椅子を付け一時的に拘束させていただきます。家族様にも訪問時必ず説明致しまして「させていただいてよろしいでしょうか」？と承諾頂き記録に残して来訪時実態を説明いたします。	禁止の対象となる具体的な行為を明記した身体拘束に関する資料を用意し、勉強会を行っている。ケガ防止のためなど、やむを得ず身体拘束をする場合は家族の同意を得、話し合いの経過を詳しく記録している。玄関は夜間のみ施錠し、出入があればセンサーで分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア中入居者様への言葉使い・態度に乱暴を見られた場合即、注意仕合、ミーティングで再度反省の方向へと話し合いに努めております。		

グループホーム あかるい家

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	青年後見制度利用者様担当弁護士様との書類上の交換と伴ったご指導がありまして、スタッフ共ども、共有いたしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご利用者様、ご家族様に丁寧に説明するよう心掛けています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が来所された場合、ご本人の部屋でゆったりと親しみも込めまして、本人の様子説明をさせていただきながら、時間を掛けて信頼関係を結ぶように努めております。そこから意見が出るようにと思っております。	運営推進会議の際や介護計画説明時に家族の意見を聞き、得られた意見を「家族との連携ノート」で共有している。乳酸菌飲料の飲用や衣類交換など、個々に家族の意見を反映している。毎月、個人毎のお便りを作成し、家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務のなかで、意見交換を行い、検討し業務に反映させている。	月1回ミーティングを行い職員同士活発に意見交換している。ミーティングでは、行事やサービス評価の話し合い、学習会などを行っている。管理者は職員と随時面談を行っている。職員は各自の得意分野を活かして運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、直接的、間接的に就業の状況について把握に努めている。福利厚生についても力をいれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務に無理のない範囲で研修等に参加したり、ミーティング、回覧などで実践にいかせるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な機会を通じて、交流し意見交換の場を設けております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化を第一に考え時間を掛けながら少しずつご本人の不安を取り除くよう寄り添ったケアに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の不安解消を第一に考え、家族様から遠うざけず来所頂き、ふれあいと、沢山のお話をさせていただきながら、時間を掛けて不安が取り除かれるように声かけを行います。慣れていくことで家族様の心配の軽減を図っていけるよう努めて参ります。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの中からニーズを分類し家族様とも一緒に意向も踏まえながら、対応させていただいております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の元気な機能を見極め維持を目標に出来る自信を持っていただくよう一緒に行動を行うよう日々心がけております。、		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の心身状況報告と緊急時には即連絡、来所頂き共にご本人への支援を共有、協力いただいております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	先祖を大切に思う方へ車椅子で墓前参り、以前入居住宅への見学継続、馴染みのご近所さんの来所時お茶でゆっくり寛いでいただき、昔話を皆様と一緒にして頂くように配慮させて頂いております。、	半数ほどの利用者に知人が来訪している。職員が同行し、利用者はお墓参りや昔住んでいた場所などに行っている。かかりつけの町立病院で昔の友人に会っている方も多い。コンビニエンスストアやスーパーなどへの買い物同行も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	身の回りの自立されている方が、積極的に皆様の孤立を阻止して関わりを持ってくださいます。		

グループホーム あかるい家

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	昨年亡くなられました入居者様のご家族から生前の衣類を寄付頂き、さらに来所頂き「偲びながら」交流もごさいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	危険が及ばない限り意向に沿うようにケア提供し、暮らし方の希望も十分配慮出来るように心がけております。	思いや意向を言葉で表せる方は減っているが、難しい場合も表情や家族からの情報などをもとに把握している。センター方式のアセスメントシートを作成し、追加記入や定期的な更新を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴聞き取りアセスメントを重ね、馴染みの暮らし方に近づけるように声かけながら努力しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人の生活リズムを崩さぬよう、又有する力を無理なく活用できますように、個々に合った、身の回り整理、軽運動等出来る実感を喜びに変わるように支援しております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画見直し3か月毎、本人又は、家族様と話し合いを持ち、現場に強い職員とのモニタリングも参考にケアプランに反映させております。	3か月毎に介護計画を更新している。課題分析や目標の評価をもとにカンファレンスで意見交換し、計画を更新して家族に説明している。個人記録は計画目標を印刷した様式とし、職員が目標に沿った記録を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書と連動した日々の記録用紙に個別に、実践・結果・気づき記録等を反省材料としミーティング・プラン見直しにも活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身異変時のニーズに応じて報告・相談・情報収集に徹底地域資源活用なども考慮しながら、柔軟な支援が出来ますように取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員さんの役割・町内会行事・社協さんの支援等の把握、少しでも地域住民の実感が持てますように機会ごとにお話を行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医との継続、訪問診療希望とニーズに添って医療を受けられますように支援しております。	利用者のかかりつけ医に定期的に受診が出来るように支援している。受診内容は「医療関係ノート」で共有しており、週1回、看護師が作成する「医療連携体制記録」にも健康状況を記載している。	

グループホーム あかるい家

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時以外、週1の勤務日に皆様の心身状態報告・情報を伝え適切かつ時には、迅速に受診・看護が受けられる様支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期・不定期受診時に病院関係者との関わりを意識的に作って、入院時は情報収集を担当医からも頂いております。早期退院に向けても積極的に本人の状態把握し、ホーム可能状態の報告をさせていただきます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期の方向へ向かわれましたら、契約上再度家族・医師、施設で話し合いを重ね家族の意向のもと、支援させていただいております。講演の内容を推進会議で話し合う「終末期」	契約書内の「重度化対応・終末期ケア対応指針」に沿って事業所の方針を説明し、同意を得ている。希望に応じてできる範囲の対応を行う方針とし、過去に2名の看取りを経験している。看取りの状況についても詳細な記録を作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現場での実際の急変を経験しながら、シュミレーション・報告・記録・ミーティング等の学習を実践力として身に付けていく様努力いたしております。「嚔下・血圧異常・転倒時」		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	26年度、救急救命・応急手当基礎講習会出席から始めて。ミーティング・推進会議「内容報告」シュミレーションから勉強しております。	年2回、夜間を想定した避難訓練を消防や地域の協力のもと行っており、地域の方専用の連絡網も作成している。救急救命訓練は管理者が受講して職員に伝えている。災害時に必要な備蓄品を準備している。	利用者の急変や事故発生に備えて、全ての職員が3年に1回程度、消防署や医療機関が行う救急救命訓練を受講できるよう、計画的な取り組みを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を否定するような物言いや態度が見られましたら、即、その場で注意仕合します。羞恥心を感じさせない気配りにも努力しております。	利用者への呼びかけは名字に「さん」付けを基本とし、気になる言葉遣いは管理者が注意し、時には理事長の指導もある。個人記録は事務室で安全に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、行動起される前に、しませんか？行きませんか？と言葉かけから本人の意思を、引き出すように心がけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様本意に可能な限り添ってケアに努めておりますが、勤務体制などに寄って不可能が生じた場合、十分納得いただいております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1日に一度は必ず鏡を見ていただきます。外出時、お客様来所時に、一部の方ですがご本人の希望をお聞きしながら一緒に洋服選びをさせていただきます。		

グループホーム あかるい家

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食は皆様の人気時間ですので、旬の食材少しでも使い季節感を味わって頂いております。食器片付け・洗い場・配膳、等一部の方と一緒に無理なくして頂いております。	法人から1週間毎に届く献立をもとに食材を事業所で調達し、畑で採れた野菜や果物も食卓に上りバランスのとれた美味しい食事が提供されている。利用者は食器洗いなどに参加し、職員と一緒に楽しく食事をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾患を見極め主食と副食の量と栄養バランスをスタッフ一同で確認、水分も身体状況で加減を図って支援させていただいております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯ブラシ・うがい・舌の洗浄、見守り・声掛け・介助と個々に合わせまして対応させていただいております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握、時間の記録を参考にし、可能精次第で、出来る限り便座に掛けて頂き排泄に繋がる様に支援しております。	利用者の介護度は高いが、「生活行動記録」や「排便チェック表」で個々の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレで排泄できるように支援している。その場の雰囲気に合わせてさりげなく声かけし、トイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立内容、水分の種類確認。飲水量の加減と時間の工夫。室内運動「スローステップ」踏み、ゲームで元気付けが、腸運動となっております、それぞれの方に合った支援を行っております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒否された場合は強く引き込まず時間を掛けまして、気分転換後、再度入浴に繋げております。基本同姓介助で安心感を図っております。	日曜日以外の午後の時間帯に全員が週2回の入浴を支援している。毎日足浴を行う方もいる。入浴拒否の方には誘う職員や曜日・時間を替えて対応している。入浴剤を工夫し、同性介助も行っている。シャワーチェアも活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	長年の習慣を崩さぬよう個々にお合わせし昼寝、就寝時間を決めていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬で心身に異変がありましたら、意見交換し看護師にも助言いただき担当医に即、相談指示を頂いております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お部屋のカーテン開閉・カレンダーめくり・花の水替え・洗濯物のたたみ整理・台所手伝い・袋たたみ・個々に役割を持って頂いております。お彼岸には「おはぎ」作りも楽しんでいただきました。		

グループホーム あかるい家

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏から秋には、自宅へ家族様と何度かお帰りになったり、買い物、食事と楽しめる方もいらっしゃいます。 買い物・墓参り・散歩・公園・ホーム前で音楽療法・畑見学と作業も行っております。冬も日中の暖かな日に玄関前で日向ぼっこもして頂いております。	殆どの利用者が車椅子を使用しているが、天候の良い時期には、庭の東屋でお茶を飲んだり事業所周辺を散歩している。車で公園に行ったり、コンビニで買い物を楽しんだりしている。白鳥見物やお花見、紅葉狩りなどの外出行事もある。冬場は、外気浴や通院時に遠回りをしてドライブを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人様ですが、気分転換に買い物へ散歩がてら同行いたします。お金の出し入れと家計簿も付けられています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠距離の家族への電話は本人難聴の為お声を掛けるだけですが、家族様は大変喜ばれます。年賀状は挨拶と名前だけですが、一緒に頑張って書いてくださいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々掃除・整理整頓・感染予防に努め共用空間で居心地良く過ごしていただけますよう努めております。四季を感じて頂くのに時季の花、観葉植物等も備えております。刺激的な光、音なども気配りいたしまして、広々の居間でゆったりと過ごしていただいております。	大きな窓がある居間と食堂を中心に居室や浴室、トイレ、洗面所が配置されている。、居間には、カラオケや週刊誌などが置かれ、観葉植物やお花も飾られている。錦華鳥の鳥籠も利用者の気持ちを和ませている。庭に面したサンルームにはテーブルと椅子が配置され、庭や東屋を眺めることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広めで明るい居間で自由に寛いでいただけるソファを置き、自分の場所の確保には、車椅子の方、歩行者の方それぞれ移動しやすい配置に気配りさせていただいております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れている寝具・衣類・家具・椅子など使っていただき、ベッドからの降り口の得てをお聞きしながら向きを決めており、落ち着いた生活が出来ますよう支援させて頂いております。	居室入口に暖簾が下げられ、表札代わりに利用者の写真が掲げられている。室内には備え付けのベッドとロッカー、日めくりカレンダーなどがあり、利用者は、馴染みの家具や人形、家族の写真などを持ち込み、その人らしい寛げる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関からバリアフリーで、居間は広く明るく、危険な障害物は配慮しまして、各所には手摺を設置移動に活用していただき、車椅子対応トイレで安全に支援を行わせていただいております。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 グループホーム あかるい家

作成日：平成 27年 4月 4日

市町村受理日：平成 27年 4月 7日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	訓練受講は事故発生に備えて全スタッフが希望するところである。しかし、スタッフの都合などにより勤務日程が変則であり、長時間による受講で時間が取れないのが実情である。	夜勤者から順番に訓練受講ができるように努力したい。	消防署、医療機関、の受講情報を集め、より良い方法を取り、法人と話し合いを重ねながら、一人からでも受講ができるようにスタッフ同士の協力の元訓練を受けていきたい。	12か月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。